

1. 基本情報

評価対象年度 (令和2 年度)

施策コード	421	施策名	自然環境の保全
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)	
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち	
主担当部	都市整備部	主担当課	水と緑と公園課

2. 施策の方向

10年後の姿	雑木林、崖線、屋敷林などの緑地や河川など、豊かな自然環境が適切に保全されています。		
施策の方向性	1	自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます	
	2	雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うるおいを感じるまちづくりを進めます	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和2年度決算額
緑地保全事業	1、2	水と緑と公園課	38,755
緑地整備事業	1	水と緑と公園課	255,742
総事業費(施策の合計)			294,497

4. まちづくり指標

指標情報				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度	令和7年度	
①	名称	市が保全する緑の面積		目標値	5.2	5.2	5.6	5.7	6.0
	説明	—	単位 ha	実績値	5.2	5.3			
	抽出方法	公有財産台帳など		達成率	100.0%	101.9%			
②	名称	身近な水辺や緑に親しみを感じると思う人の割合		目標値	—	75.0	75.0	76.5	80.0
	説明	—	単位 %	実績値	72.2(※)	71.3			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	95.1%			

※平成29年度実績値

5. 評価(令和2年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	<ul style="list-style-type: none"> ●構成事業の状況は、全ての事業が施策の方向性の1と2の目標達成の手段として寄与しており、「10年後の姿」を実現するために順調に事務事業が展開されている。 ●まちづくり指標の実績値は、「市が保全する緑の面積」は目標値以上となったが、「身近な水辺や緑に親しみを感じると思う人の割合」は目標値を下回った。 ●市及び都が所有する公有林、市民が所有する保全林などを合わせた17ヘクタールの雑木林や、柳瀬川と空堀川の水辺が市民の身近な場にあることが、市の個性となり、市民が市に愛着を寄せる要素の一つになっている。 ●カタクリまつりやさくらまつり、ひまわりフェスティバルは、市内外の人々が清瀬市の豊かな自然を発見し、親しむ機会になっている。 ●開発に伴い雑木林が減少する傾向にあることから、市は、せせらぎ公園や中里一丁目緑地の周辺の緑地などの取得を計画的に進めている。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和2年度からの変更点	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業実施に制約が生じる。
-------------	----------------------------------

7. 施策を進める上での課題

	施策を進める上での課題	限られた財源の中で、保全すべき緑地の公有地化を進める必要がある。
①	課題に対する令和4年度以降の取組	市財政負担の年度間の平準化や、国や都補助金を活用できるよう、土地開発公社による用地先行取得を活用して事業を推進していく。
	施策を進める上での課題	雑木林の樹木の老木化、高木化が進行し、腐食、倒木に至る可能性がある。また市有林の近隣住民からは、落ち葉や越境枝、日照などに関する苦情も寄せられる。
②	課題に対する令和4年度以降の取組	周辺地域の安全を確保するため、市有林の萌芽更新を順次実施する。また境界付近については、適時必要な対策を実施できるよう、樹木の状態を監視する。
	施策を進める上での課題	緑地の保全活動に協力していただいている市民団体が高齢化しており、後継者の育成や発掘が必要である。
③	課題に対する令和4年度以降の取組	(仮称)花のある公園でのイベントや市報、ホームページ等で、豊かな自然環境を清瀬市の魅力としてアピールし、市内外の人々に親しみや保全の必要性を感じていただけるよう啓発していく。